

2035 年までの中東諸国のエネルギー需給予測分析

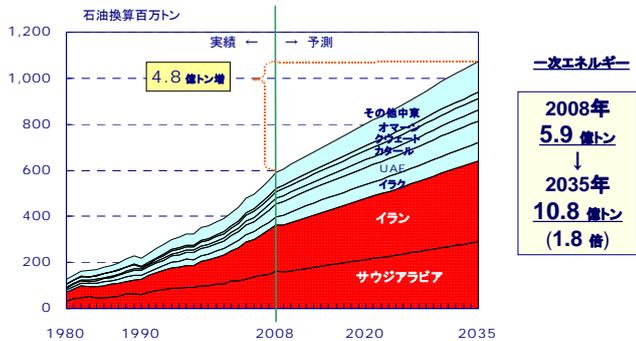
Forecast Analysis on Energy Demand and Supply In Middle East Countries by 2035

惣 福 脇 学 **・ 小 宮 山 涼 一 *・ 松 尾 雄 司 **
Sofukuwaki Manabu Ryoichi Komiyama Yuji Matsuo

1. 一次エネルギー消費の見通し

中東諸国の実質 GDP を見ると、足元では世界経済危機を受けて減速しているものの、2000 年から 2008 年までは年率 5%超の水準で成長している。中東諸国の経済は、全体的には堅調な人口増加、資源生産の拡大、資本の蓄積等を通じて、先進国を上回るテンポで成長し、2035 年まで年率 3.4%で成長すると見込まれる。

一次エネルギー消費は、2008 年から 2035 年まで年率 2.2%で増加し、2008 年の石油換算 5.9 億トンから 2035 年の 10.8 億トンまで 1.8 倍に拡大する。サウジアラビア、イランの一次エネルギー消費を足すと中東全体の一次エネルギー消費の約 6 割を占め、2008 年から 2035 年までのエネルギー消費増加量は上記二カ国が 57%を占める。技術進展ケースは、再生可能エネルギーの導入や原子力の導入促進、発電効率、燃費改善、省エネ等を見込んでおり、2035 年に石油換算 9.4 億トンと約 12.9%の省エネが達成される。



(出所) IEA 「Energy Balances of Non-OECD Countries」を参照、見通しは(財)日本エネルギー経済研究所

図1 中東の一次エネルギー消費の見通し(地域別)

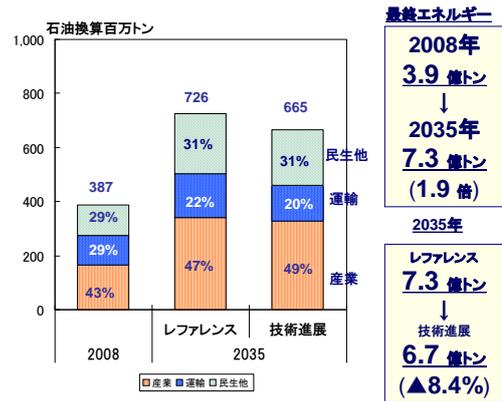
2. 最終消費エネルギーの見通し

最終消費エネルギーは、2008 年から 2035 年まで年率 2.4%で増加し、2008 年に石油換算 3.9 億トンから 2035 年の 7.3 億トンまで約 1.9 倍に拡大する。部門別では、非エネルギー部門を含めた産業部門が全体の 4 割超を占めており、石油化学を中心として堅調に成長を続ける。また、人口の増加や経済的な成長を背景に、民生部門や運輸部門での増加も著しい。技術進展ケースでは、石油換算 6.7 億ト

* 東京大学

** (財)日本エネルギー経済研究所

ンとなり、8.4%の削減が見込まれる。



(出所) IEA 「Energy Balances of Non-OECD Countries」を参照、見通しは(財)日本エネルギー経済研究所

図2 中東の最終エネルギー消費の見通し

3. 発電電力量と電源構成の見通し

発電電力量は、2000 年から 2008 年までに年率 6.6%で増加するなど著しく伸びている。2008 年から 2035 年までは年率 3.1%を見込み、発電電力量は 2008 年の 771TWh から 2035 年の 1,741TWh と約 2.3 倍に増大する。技術進展ケースでは、発電効率の向上や省エネ等の進展により、1,589TWh と 8.7%の削減が見込まれる。

電源構成は、2035 年にかけてガス火力発電が石油火力発電に代わり徐々に導入されていくと見込まれる。イランや UAE での原子力導入を見込んでおり、2035 年の中東全体の原子力発電設備容量は 7.6GW となる。技術進展ケースでは、ヨルダンやクウェート、サウジアラビアでの原子力の導入、中東諸国での再生可能エネルギーの導入促進が想定され、非化石電源が発電量の 15%程度を占めるようになる。

4. 石油・ガス供給の見通し

石油・ガス生産見通しは、BP、IEA データ他最新の動向と世界の需要増を踏まえ予測した。石油生産は、2007 年に 2,500 万 b/d、2035 年は 3,500 万 b/d を見込む。ガス生産は 2007 年に 342bcm、2035 年は 741bcm と約 2.1 倍を見込む。

参考文献

[1] IEA 「Energy Balances of Non-OECD Countries」各年版
[2] 伊藤、松尾、小宮山他：「アジア/世界エネルギーアウトック 2010」、日本エネルギー経済研究所、2010 年 11 月